

Title	キャリア発達における非専門家の果たす役割 - 初期段階キャリアを中心に -
Sub Title	
Author	小林, もとこ (Kobayashi, Motoko) 渡辺, 直登
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2006
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2006年度経営学 第2141号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002006-2141

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	渡辺研究会	学籍番号	80530440	氏名	小林 もとこ
(論文題名)					
<p>キャリア発達における非専門家の果たす役割 —初期段階キャリアを中心に—</p>					
(内容の要旨)					
<p>1990年代後半以降日本社会において「自律的キャリア」への意識が高まる中、個人のキャリア支援分野では、担い手の資格化、個人のキャリア関連能力向上が主流となりつつある。その結果、個人のキャリア形成意識は高まったものの、「キャリア」という言葉やそれを支援する人々の名称・概念の乱立、「将来のキャリアが見えない」、「自分が何をしたいのかわからない」といった個人の焦りや不安も見られている。本論文では、主に民間企業の大卒社員のキャリア形成の基礎的時期（入社後から10年位までの期間）に焦点を当て、家族・上司・同僚などの身近な人々を専門家に対して「非専門家」と定義し、彼・彼女らの影響と役割を明確にすることで今後の専門家の役割、組織での実践のしくみを提案するものである。</p> <p>研究手法としてはキャリアの中でも「ビジネススクールへの進学」という事例に絞り、質的調査として、その意思決定に至る過程での事柄・人物的影響についてのインタビュー内容から身近な人々の役割をモデル、アドバイザー、サポーター、ライバルの4つに分類した。さらに量的調査を実施し、分類の実証、性別や年齢との関係性を明らかにした。実際に多かったのは反面教師的なモデル、体験伝授型のアドバイザー、本音を語り合えるサポーターであり、今後求める役割としてはお手本となるモデル、本音を語り合えるサポーター、切磋琢磨できるライバルであった。</p> <p>以上のように、非専門家も個人のキャリア形成に対して影響を及ぼしていることが明らかとなったが、そのような身近な人々のサポートが量的・質的に不足した場合、専門家が役立つと考えられる。これからのキャリア形成においては、専門家・非専門家を含めた形での集団的サポートというあり方が重要であると考えられ、企業や組織内においてもこの関係性を構築することが重要である。</p>					